

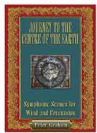
1. Concept

知識を集める場所であるアーカイブを、地下を深く掘る事で表出した「地層を持つ巨石」の内部に設計する。そしてそこには管理者が住まう。

想像の地下世界は数多く構想されているが、そこには過去への退行や特別な世界の存在などの共通言語が存在している。

この計画において構想される地下の世界とは、知識が集められるアーカイブであり、またその管理者が住まう世界である。

地下に降りるという行為によって与えられる巨石内部の空間はノスタルジアなものであり、地下へと降りていく空間体験は時間を進行する体験として与えられる。また、集積されたアーカイブは遠い未来に向けられた時代の遺跡という意味を持つものである。



■地底旅行

1864年 ジョージ・ヴェルヌ

火山の中へと降りていくと地球の中心にたどり着く事が出来るという暗号をもとにして、地底世界へと降りていく。この小説で描かれる地下世界は地上の世界とは全く異なるものであった。地下深くなるにつれて時間は進行し、そこは巨大なキノコが生い茂り、オーロラが空を照らし、古代生物が闊歩している世界が広がっていたのである。

■失われた地平線

1933年 ジェームズ・ヒルトン

謎の操縦士に連れられ飛行機で不時着した場所はチベットの奥地であった。死ぬ間際に操縦士の残した「近くにラマ教の僧院がある」という発言に従って彼らがたどり着いた場所はシャングリ・ラと呼ばれる理想郷であった。そこは最先端の技術が集結した知識の集結する場所であったが、そこには大きな秘密が隠されていたのである。

■人生使用法

1978年 ジョージ・ベレンク

パベルの図書館さながらにすべての世界を内包した巨石として描かれる集合住宅を1部屋1章として全100章で綴った超長編小説である。その中の74章「エレベーター機械室2」においては空間を下降していくエレベーターの体験が過去の記憶を進行していく体験として描かれていた。空間的下降が時間的進行として描かれていたのである。

■12Monkeys

1995年 テリー・ギリアム

ウイルスによって人類が死滅した未来の世界では生き残った人びとは地下に暮らしていた。その未来を変える為に主人公はタイムマシンを利用して過去の世界へと旅をする。この世界では地上/地下の空間的な対比と現在/未来の時間的な対比が交錯するように構成されていたものである。

■地下世界

1992年 R・ワイリアムズ

ここでは、洞窟の闇に対する戸外の光の優位というプラトンの構図がフランス・ペーコンの「真理は自然の最も深い鉱坑の中に探すべきだ」と語った時に地下の価値観が逆転したと語っている。むしろ、地下には真理が隠されているのだと。そして19世紀、実際に学者達は真理を求めて地下に向かっていった。

■果てしない物語

1979年 ミハエル・エンデ

2部構成によって語られるこの作品はその前半部分では本の世界を救う為に主人公が奮闘し、後半部分においては主人公が本当の自分を捜す物語である。主人公は失われた自己の記憶を探し求める際に地層から発見しようとして試みていた。過去の記憶と言うものが地下の地層と対応づけられて語られていた。

■オトナ帝国の逆襲

2001年 原一博

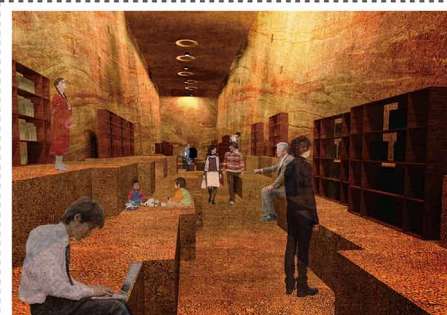
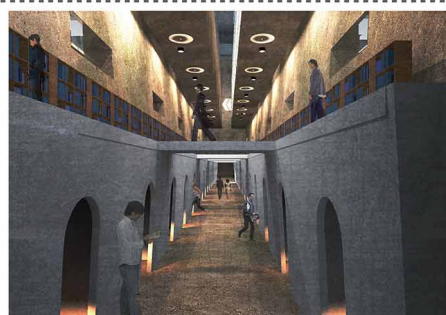
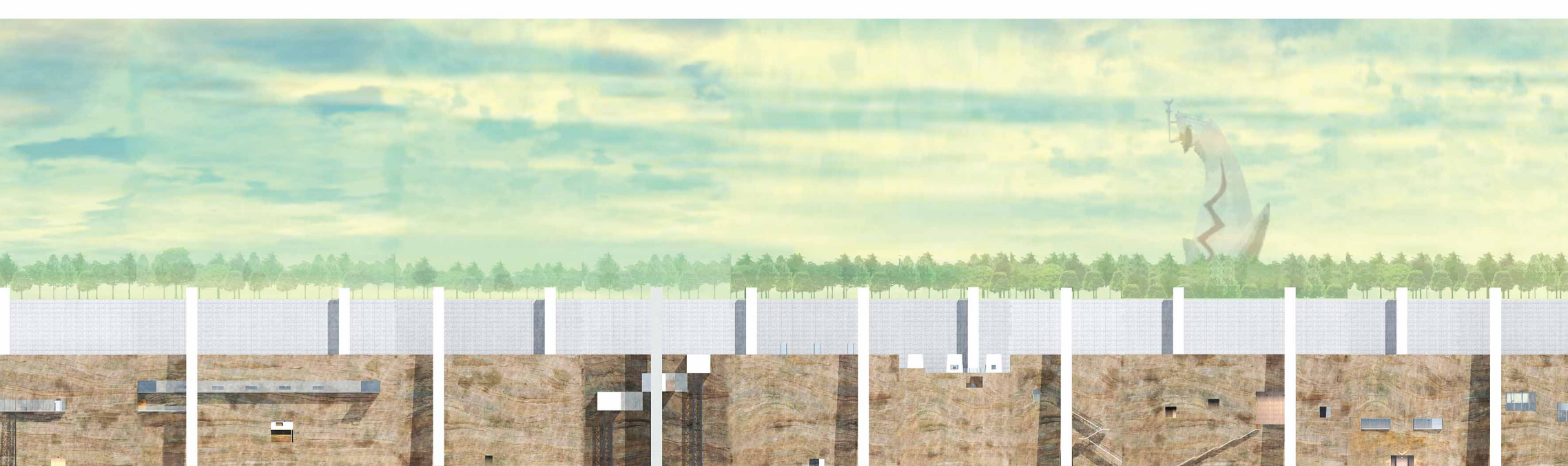
時間の針を20世紀の円環の中に閉じ込め、黄金の20世紀がよみがえるという野望を持つ秘密結社のケンとチャコが住む世界は地下に広がる夕日町であった。永遠に訪れないユートピアとして虚構の過去を築き上げた彼らはその世界を消費の対象ではなく、居住のためのコミュニティとして、地下世界を過去の世界だと再定義したのである。

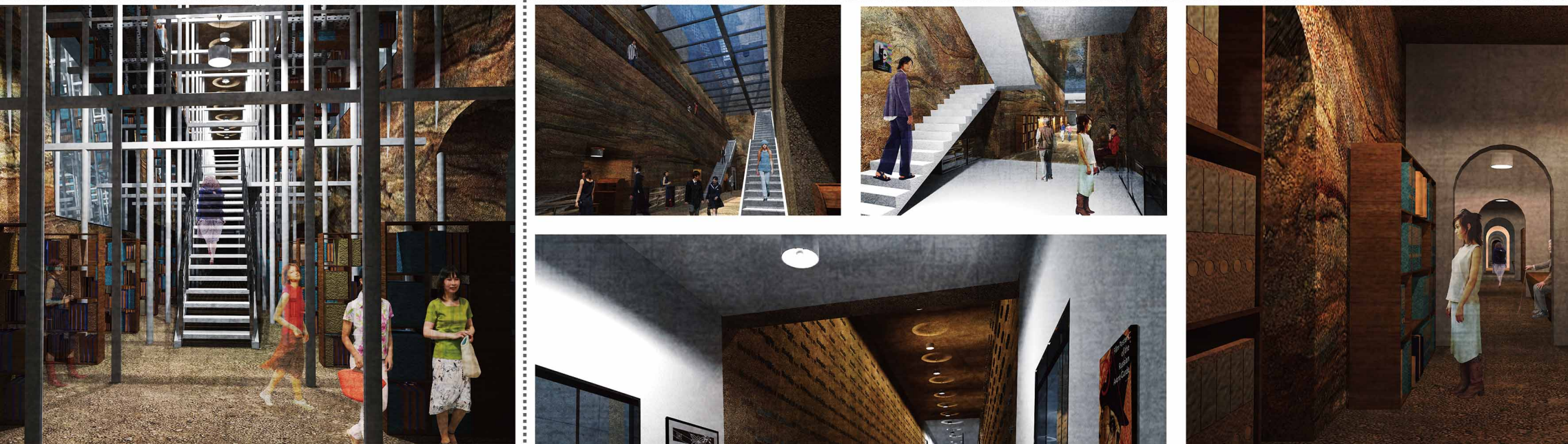
■地下の国のアリス

1864年 ルイス・キャロル

白いウサギを追いかけて少女が落ちた地下の世界は不思議な事がおこる異世界であった。そこでは言葉を話す動物や虫がいたり現実の世界とは異なるものであった。地上が普通世界として描かれる一方で、地下の世界は地上とは全く違う不思議な世界として描かれていた。









4.Program

この建築はアーカイブである。記録媒体である紙とフィルムがこの建築に集積されていく。それはジェームズ・ヒルトンの『失われた地平線』の理想郷「シャングリラ」のように知識が蒐集される場所であり、同時にノスタルジアな空間は記憶の中の虚構の過去を想起させる。

アーカイブとしての機能は
1.収集 2.保存 3.公開
の3つの役割が考えられている。この建築は紙とフィルムが集積されていき、開架と上映によって資料の公開を行い、そして資料の修繕・保管を行う施設である。

また、この建築は端から端までが1つのINDEXになっている。ABC-Zの順番に建築の軸線に沿って資料が集積されていくこの建築は1つのアーカイブでありながらINDEXとして26の空間の連続によって生まれるシークエンスでもある。

6.Architecture-design

INDEXとしてアルファベットに対応した26の空間が連なる建築内部のデザインを行う上で3つの手がかりを用いる。

1つ目はアウトスケールな空間設計。岩壁のテクスチャーで包まれた空間全体のスケールを身体スケールから大きくはなれたスケールで構成する事でその内部空間に地上とは違った世界が内包される。

2つ目は光の連続的な変化。大きなスケールの空間は明るい光で満たされるがその空間をつなぐ領域はスケールの小さな洞窟のように設計することで光の変化の連続性を生み出す。明るい空間からの光がスケールの小さな場所の奥から漏れ出る光景はノスタルジアな空間を生み出す。

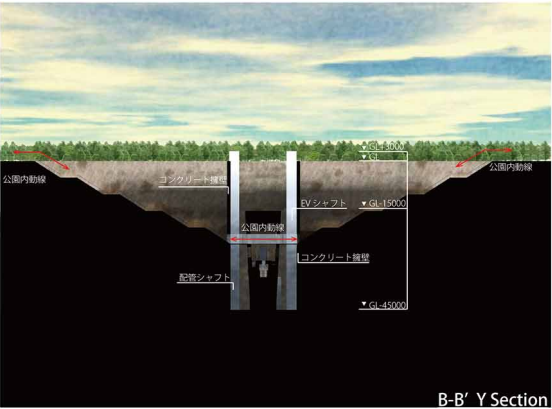
3つ目は岩壁との身体的距離の設計。大きなスケールの空間の中に岩壁との身体的距離が近い空間を挿入する事で洞窟の中のような身体間隔が生まれる場所を創り出す。洞窟空間は根源的な記憶に触れるものとなる。

7.Section-diagram

万博記念公園を横断するように伸びる軸線に沿って地下に存在する建築の軸線と直行方向の断面図。万博記念公園内を利用している人の動線が建築内部に干渉して重なる。

敷地内の大地を軸線に沿って刻む谷の深さは45mであり、万博記念公園全体を横切る。万博記念公園を分断するこの谷とその両脇に並ぶ列柱が、現在の万博記念公園の表情をより豊かにする。

谷の底から上を見上げると、大スケールの視覚的な広がりが見え、万博記念公園内から谷の底を除いてみれば、地下深くに存在する謎の世界がいま見える事が出来る。万博記念公園の地下に「シャングリラ」が生まれる。



5.Site-diagram

-phase1-



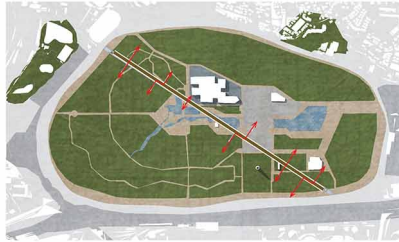
敷地内に存在するいくつかのポイントの間を縫うようにして1本の軸線を設定する。

-phase2-



軸線に沿って幅20m、高さ45m、距離1.3kmの溝を大地に刻む。その谷底の中心には掘り残された巨石が走る。

-phase3-



溝によって分断された公園をつなぐ動線を設定する。公園内の動線と谷底の巨石内部の空間が交錯する。

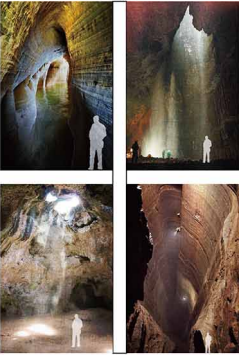
-phase4-



建築の始まりと終わりの場所には塔がそびえ立つ。谷の左右に並ぶ柱は谷底へと降りる垂直動線と上下配管シャフトを兼ねる。

-Key1-

アウトスケールな空間



-Key2-

光の連続的な変化



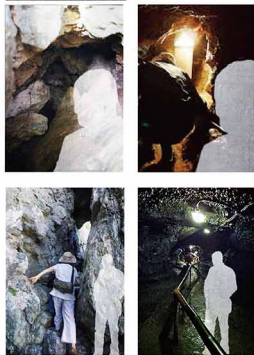
非常にスケールの大きい空間は人間の根源的な記憶に語りかけてくる。地下に生まれるノスタルジアな空間は、「地上/地下」と「現在/過去」の対立を援用する形で存在する。EXPO'70の構成とも重なり合う。



暗い洞窟の光から差し込んでくる光は特別な感情を生み出す。それは懐かしさと恐ろしさを兼ね備えた子宮内の原始の記憶がよみがえるから。胎内回帰の願望とリンクしている。

-Key3-

岩壁との身体的距離



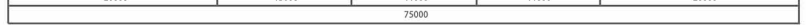
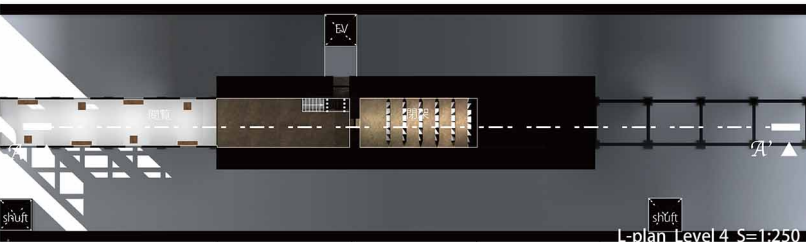
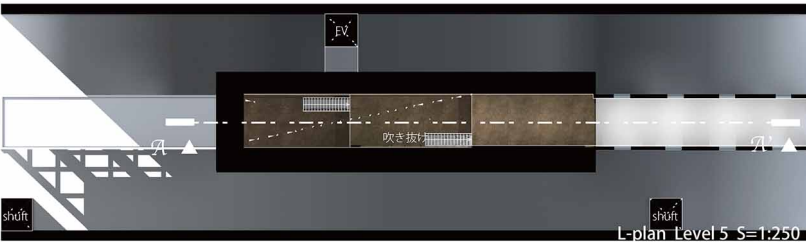
身体スケールで岩壁に包まれる空間を建築内に内包する。狭い洞窟の中を歩いている時に感じる岩との距離感により原始の記憶に語りかける空間となる。否日常性のある空間と地下に別世界が生まれる。



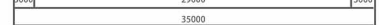
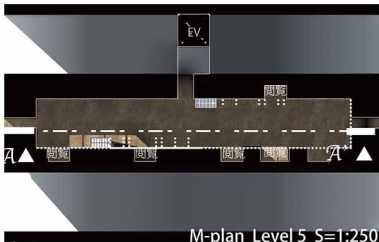
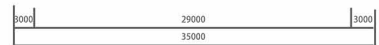
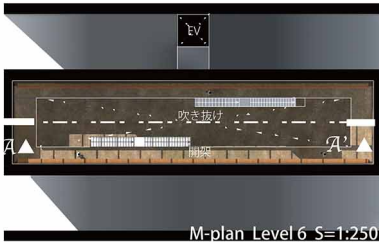
段上に掘られた洞窟の空間の前後に建築が結合している。洞窟空間が連続していた状態から一度建築部に入ると明るい光を感じる事ができ、また洞窟空間へとはいっていくという変化が起きるようになっている。

段状になっている部分では段の上部が開架・閲覧スペースになっていて、フロア間がつながっている。段の下部分では生まれるスペースを利用して資料の保管スペースになっている。

洞窟の空間そのものは身体スケールから離れたものに設計をしている。

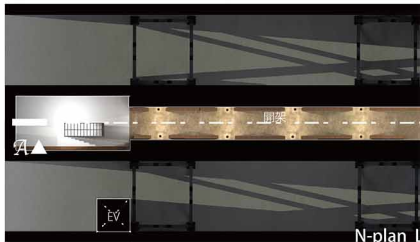


大きく掘られた洞窟空間の上部左右にはキャットウォークの様に開架資料が並び、下のレベルでは左右に穴のように入りこめる資料閲覧スペースが存在している。



万博記念公園の大地の池の下部は池の水が落下する滝の下にあり、まわれる水量の下に空間が続いている。

中心となっている移動動線の部分になっていて、そこに上部の水の光が差し込んでくる。



■機能
〈アーカイブ〉
保存…修繕
公開…閲覧
収集…開架 / 閉架
〈居住〉
なし

入り口となる始まりの塔からつながる空間。中心となる階段から左右に空間が付属している形態を取っている。

階段左右の壁面はコンクリートの壁面を挿入したものと岩をくりぬいたそのままの壁が連続的に変化する。階段左右の閲覧室から中心となる階段の空間に光が漏れ出て行く。

A-plan Level 1 S=1:500

■機能
〈アーカイブ〉
保存…修繕
公開…閲覧 / 上映
収集…開架 / 閉架
〈居住〉
あり

公園を利用する人の動線が周りにまとわりついている空間。開架が並ぶ大きな空間に外部動線が突き刺さっている。

開架が並ぶ下の層ではフィルム資料を公開する為のホールがある。谷の法面のコンクリート壁面にフィルム資料を上映して公開する事が出来る。

B-plan Level 4 S=1:500

■機能
〈アーカイブ〉
保存…修繕
公開…閲覧
収集…開架 / 閉架
〈居住〉
なし

A-plan Level 4 S=1:250

B-plan Level 5 S=1:250

A-plan Level 2 S=1:250

B-plan Level 3 S=1:250

■機能
〈アーカイブ〉
保存…
公開…閲覧
収集…開架 / 閉架
〈居住〉
なし

大きな空間がすべて段上につながった空間になっている。そこは開架スペースとされているために、下部からこの空間に入ってくると本棚が身体スケールを超えて積まれているような光景が広がる。

O-plan Level 5 S=1:250

■機能
〈アーカイブ〉
保存…
公開…閲覧 / 上映
収集…開架 / 閉架
〈居住〉
あり

洞窟部に建築が寄生するようにならんで貫入している。中心となる空間は洞窟の様な細い動線空間でそこが開架・閲覧スペースになっているが、左右に寄生している建築部分から上下移動の動線に入れるようになっており、上部に移動するとフィルム資料の公開の為の上映スペースと映写スペースが存在している。

P-plan Level 3 S=1:250

■機能
〈アーカイブ〉
保存…修繕
公開…閲覧
収集…開架 / 閉架
〈居住〉
なし

Q-roof-plan S=1:250

■機能
〈アーカイブ〉
保存…
公開…閲覧
収集…開架 / 閉架
〈居住〉
なし

岩壁に挟まれた細い通路を登っていくと光に包まれた明るい空間に入っていく。

階段の両脇には閲覧スペースがあり、視線の奥には資料の開架スペースがレベルが上がったところに存在している。

R-plan Level3 S=1:250

■機能
〈アーカイブ〉
保存…
公開…閲覧
収集…開架 / 閉架
〈居住〉
なし

中央に存在する浮いている動線。上部空間を明るくしている光が入る空間になっている。

下の部分の空間は資料の開架の壁面にそって並べられる。壁面に入ってくる構成にしている。

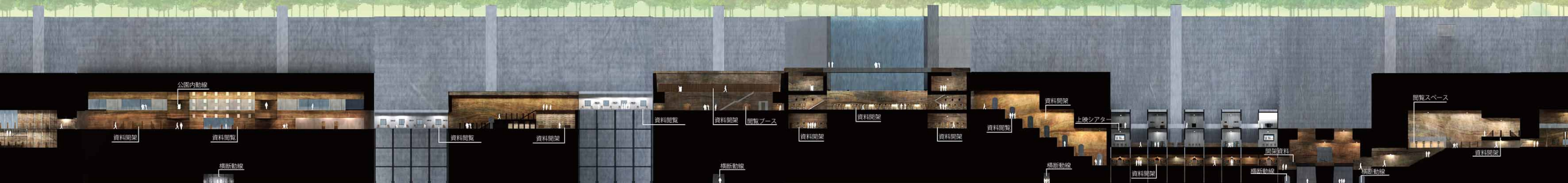
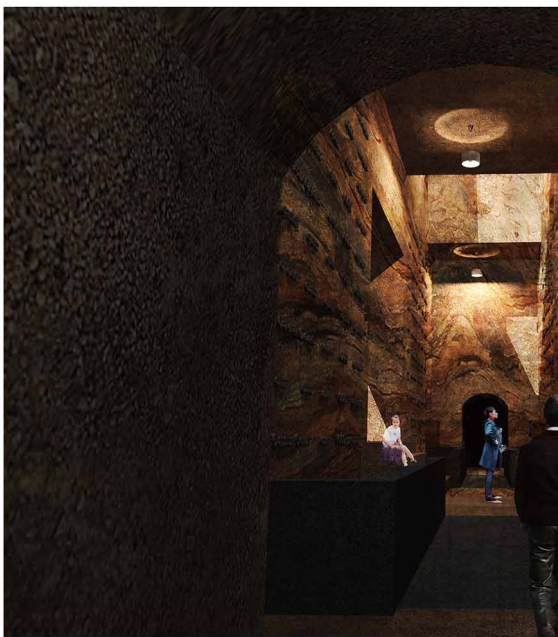
O-plan Level 5 S=1:250

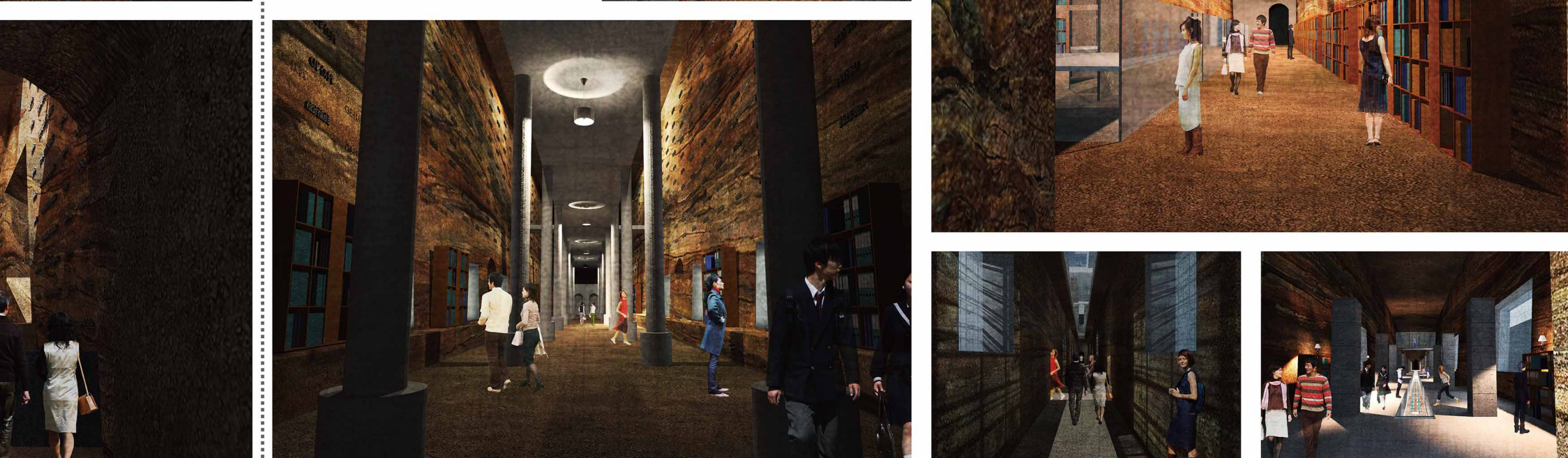
P-plan Level 2 S=1:250

O-plan Level2 S=1:250

R-plan Level2 S=1:250

The collage consists of seven photographs and a central graphic. The photographs show various interior spaces of the National Library of Taiwan, including a man walking past a large wooden bookshelf, a man standing on a staircase, a view through an arched doorway, a wide view of the main reading area with a central staircase, a person walking through a narrow corridor, a group of people walking through a large hall, and a close-up of the textured concrete ceiling. The central graphic is a grid of nine squares, each containing a large white letter: R, T, V, W, Ü, Z, S, X, Y. The word 'HERE' is written in white capital letters on the square containing the letter Ü.

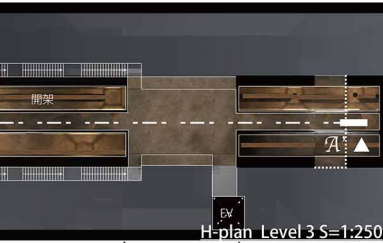
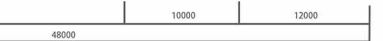


[illegible]

A-A' Section S=1:500

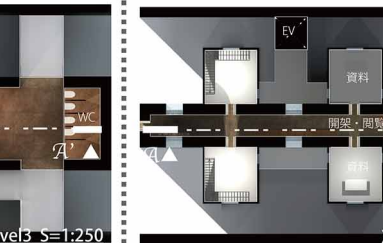
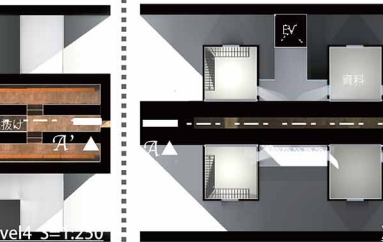
岩の中に開けられた洞窟の中に挿入した壁面が通路内側に対して傾斜していることで通路部分からの動線が上部に向かうように計画されている。視線をあげた先には岩を貫通して挿入しているガラスの筒から外の光が空間上部を照らす。

通路部分の左右には資料開架スペースを配置し、ガラスの筒によって通路とつながる。また、通路上部は上までガラスで開口を取る事で上部から細い光が通路に落ちる。中間には広い空間がぽっかり開けられている事で、その部分の外部光が通路の奥をまばゆく照らすようになっている。



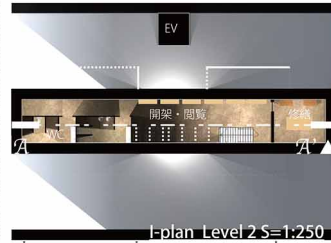
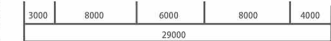
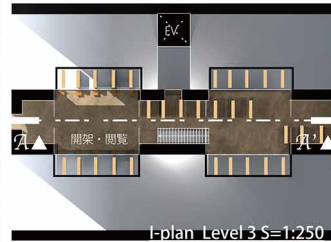
機能
(アーカイブ)
保存…修繕
公開…閲覧
収集…開架 / 開架
(居住)
なし

中心となる動線の中央から下部へ降りていく事が出来る。動線は左右へつながっている。



機能
(アーカイブ)
保存…修繕
公開…閲覧
収集…開架 / 開架
(居住)
なし

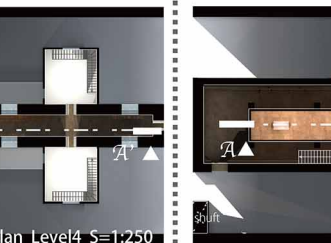
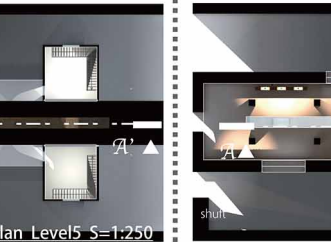
洞窟に貫通するように建築が軸に垂直に貫入している明るい空間が突き刺さっている。



機能
(アーカイブ)
保存…修繕
公開…閲覧
収集…開架 / 開架
(居住)
なし

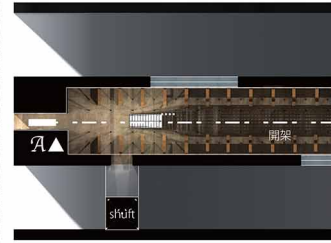
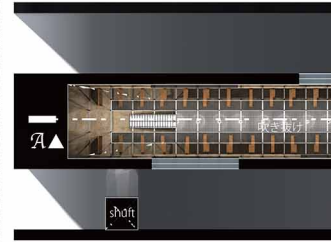
中心は幅の狭い、岩壁に包まれた開架・閲覧スペース。その左右に建築が付属する形になっている。

左右の建築部分が最下の部分からつながっていて、上下移動のコアにもなっている。



機能
(アーカイブ)
保存…修繕
公開…閲覧
収集…開架 / 開架
(居住)
なし

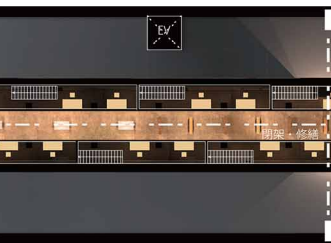
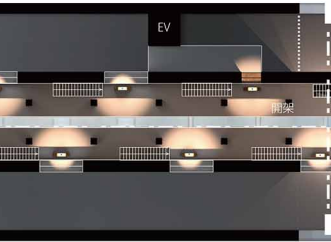
空間全体に非常に細い柱と梁がジャングルジムの様に多数存在している。細い柱から吊り構造でついている薄いスラブと同じくついている資料開架が空間に浮かんでいるように感じられる。外周部には大きな穴を穿つことによって、外部から中の無数の柱と梁が見えるようになっている。細い柱から吊るされた照明が柱と梁の影を浮かび上げらせ様々な影が空間の中に走る。



機能
(アーカイブ)
保存…修繕
公開…閲覧
収集…開架 / 開架
(居住)
なし

大きく長い空間が上下で2段階構成になっている。上部の空間は資料の開架スペースになっており、左右に資料が並ぶ。壁面に大きな開口が穿たれているので底から外部に光が薄く内部に入ってくるように設計している。下の空間が見えるように中心にはガラスのスラブがあり、視覚的に下の空間と上の空間がつながるように設計されている。

上部の空間には左右に株へと降りていく階段が多数設置されていて、そこから降りる下の空間は資料の閲覧スペースになっている。その中央、上部とガラス面でつながっている空間は資料の開架スペースと修繕スペースを配置していることで、空間的には別の開架と開架の2つのスペースが視覚的にはつながり、光が行き来するものになっている。



機能
(アーカイブ)
保存…修繕
公開…閲覧
収集…開架 / 開架
(居住)
なし

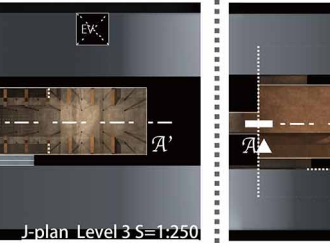
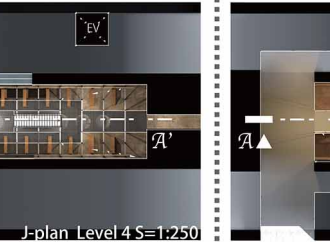
公園を利用する人びとの動線が空間に絡み、交錯している。

通路から見下ろす事の出来る洞窟内部の空間は資料の開架スペースと閲覧スペースが並んでいる。

外部からの動線から直接内部にアクセスする事は出来ないが、中の行為が資格的に感じられる事で体験も交錯するように設計されている。

空間自体が比較的大きなサイズになっているので全体が明るい空間にしている為、この空間へつながる狭い場所からはこの場所が非常に明るく見えるようになっている。

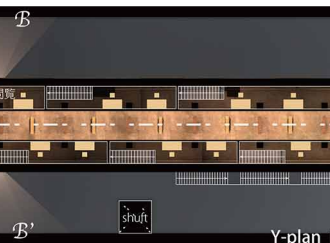
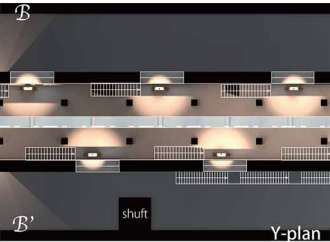
空間上部に通っている外部動線がその下に領域を生み出している。



機能
(アーカイブ)
保存…修繕
公開…閲覧
収集…開架 / 開架
(居住)
あり

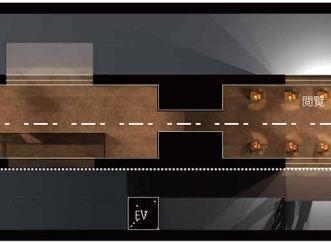
洞窟空間から終わりの塔へとつながっている。洞窟部は資料閲覧の空間がまっすぐ続いているが、その脇から上部の空間へつながる細い階段の通路があり、そこから上部の空間に上がっていくと広い上映室があり、映画フィルムアーカイブの公開ができる様になっている。

最後の終わりの塔ではこの谷と上部の公園のレベルをつなぐとともにこの建築のあとがきとしてそんざいしている。



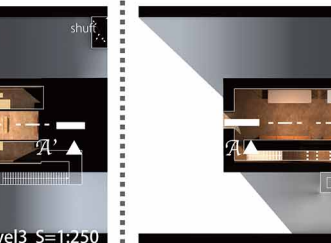
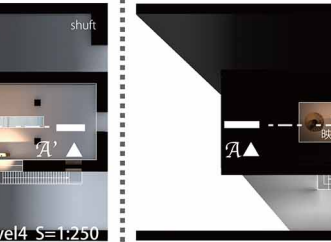
機能
(アーカイブ)
保存…修繕
公開…閲覧
収集…開架 / 開架
(居住)
なし

中心となる動線の中央から下部へ降りていく事が出来る。動線は左右へつながっている。



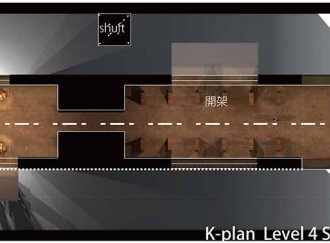
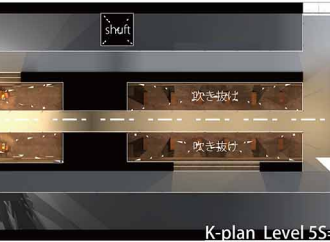
機能
(アーカイブ)
保存…修繕
公開…閲覧
収集…開架 / 開架
(居住)
なし

中心となる動線の中央から下部へ降りていく事が出来る。動線は左右へつながっている。



機能
(アーカイブ)
保存…修繕
公開…閲覧
収集…開架 / 開架
(居住)
なし

中心となる動線の中央から下部へ降りていく事が出来る。動線は左右へつながっている。



機能
(アーカイブ)
保存…修繕
公開…閲覧
収集…開架 / 開架
(居住)
なし

中心となる動線の中央から下部へ降りていく事が出来る。動線は左右へつながっている。

